きほく通信

第23号
2011年
6月13日
発行

那賀地方
患者家族会
きほく

【会　長】神森 和子
紀の川市中三谷
【相談室】0736（77）5161
【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371
森田方 TEL0736（75）4413

平成23年度総会開催

6月11日　青洲の里

平成23年度第6回総会が紀の川市西野山の青洲の里で大雨洪水注意報が出されるなか15名が参加して開催されました。

開会にあたり、物故者会員とちょうど大震災から3ヶ月に当たり被害者のご冥福を祈り参加者全員で黙祷を捧げ、はじめに神森会長（写真上）は、

「今日6月11日は東日本大震災からちょうど3ヶ月になります。会員各位の温かいお心をお寄せ下さり本当にありがとうございました。東北を故郷にもつものとして心からお礼と感謝を申し上げます。世界からも応援いただき必ず復興してくれることを信じています。

この大震災においては、難病患者にとっては薬の調達が困難になったとも聞いていますし、避難所では難病患者は暮らせません。

先日の毎日新聞に難病患者の40％以上が仕事も収入もないことが厚生労働省の調査で判明したと掲載されていました。

このような現実に対し、私たち患者が声をあげなければならないと思います。『しかたがないよ』と諦めるのではなくどんな小さな疑問や要望にも手をあげて要望してみませんか。その行動を支援するのが患者家族会の役割であると思います。きほくも当事者に対し、安心を届けられるような会となることを願っています。今後ともご協力をお願いいたします」と挨拶しました。

紀の川市保健福祉部宇田課長（写真最下右）や岩出保健所難病対策班の小林保健師（写真最下左）の挨拶をいただき、引き続いて神森会長から会員各位から寄せられた義援金16万円を紀の川市を代表して宇田課長に手渡しました。

宇田課長は「皆さま方の温かいお志に深く感謝いたします。紀の川市を通じて被災地に送らせていただきます。ありがとうございました。」とお礼の言葉がありました。このようすは12日の毎日新聞和歌山版に掲載されました。

会員のみなさま本当にありがとうございました。

総会終了後、全員レストランで健康バイキングを楽しみました。このレストランの食材はほとんど紀の川市で採れる新鮮な野菜や地鶏などを使っていて、難病患者を救う為に生涯を捧げた華岡青洲の精神を引き継ぎ、患者にも優しい料理を提供しているということです。

参加者からは「こんなに美味しく健康に配慮してくれているので、もっと多くの会員が参加してくれればよかったのにね」と話していました。

義援金を手渡す神森会長（右）＝紀の川市で

「難病患者・家族会きほく」

義援金16万円寄託

東日本大震災

紀の川

「難病患者・家族会きほく」（神森和子会長）の総会が11日、紀の川市西野山の青洲の里であった。総会は東日本大震災発生から3カ月を迎えたこの日に合わせ開催。総会前に犠牲者を追悼し、全員で黙とうをしたほか、被災地に届けてもらうため、同会メンバーで集めた義援金16万円を同市に託した。

開会のあいさつで、神森会長は「難病患者は、小さな疑問もおかしいと思ったら、手を上げ声を出していく勇気が必要。それを支えていくため、これからも皆さんに安心を届ける会として継続していきたい」と述べた。この後、神森会長から宇田美千子・紀の川市障害福祉課長に義援金16万円が手渡された。

同会では、高野山瑞宝山不動寺住職で会役員の森田長恒さん（80）が、法事の際に脱法として檀家から募った義援金30万円を毎日新聞大阪本社を通じて寄付している。森田さんは「震災から3カ月が過ぎたが、避難所生活を送る人がまだ大勢いる。今後も被災者に手を差しのべなければならない」などと話している。【山中尚登】

第6回総会スナップ